

## 1 学校教育目標

・よく考え くふうする子 ・すなおで 思いやりのある子 ・たくましく やりぬく子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と共に創る学校</li> <li>・信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も他人も大切にできる子ども</li> <li>・自律した子ども</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもを理解できる教師</li> <li>・子どもが主体的に考える授業をつくる教師</li> <li>・学び続ける教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〔学校の現状について〕

- ・地域や保護者は、学校教育への関心が高く、支援体制が確立している。お米づくり、ブロッコリーづくり等の栽培活動、挨拶運動や清掃活動などを継続的に共に活動し成果を上げている。開かれた学校づくり協議会と現PTA役員との協力体制が強く、運営について伝統的に継承されている。子どもたちを楽しませるPTA行事(6月のふれあいまつり、9月のきもだめし大会)、や12月実施の学校行事マラソン大会では応援だけでなく警備や見守りを連携して行っている。
- ・素直で感性豊かな児童が多い。昨年度は6年生が落ち着かず、高学年がリーダーシップをとる場面は少なかったが、今年度は高学年が学校全体を引っ張っていく学校を目指していく。
- ・教職員は、昨年度の小中連携教育研修会を中心に児童の主体的な学習への研究を深めることができた。児童主体となるための手立てとして児童が「選択」できる場を授業に設定していくことを共有できた。今年度は、「選択」だけでなく、児童一人一人が自ら課題を設定し追究していく学習を目指していく。
- ・令和4・5年度東京都人権尊重教育推進校として、「自分も人も大切に作る児童」を目指し、①教室環境②人的環境③授業の3つの環境を整えることによって育成していく。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に関しては、感染状況に応じた防止対策を講じ子どもたちの学びは止めないよう工夫し行っていく。

〔前年度の成果と課題〕

### 1 学力の向上

学習についての児童アンケートでは「授業がわかる」という児童が90%であったことは成果である。課題は、目標値を通過しなかった子への手立てを全教員で共有し、取り組んでいくことが課題である。今年度は、区の学力テストで目標値を超えなかった子への手立てを担当だけでなく、全教員で共有し、「授業がわかる」を95%にしていく。「わかりやすい授業」かつ「児童が考える授業」を目指して、教師の指導力向上に向けた具体的な手立て「週に一度他の教員の授業参観」を立て、児童の確かな学力の向上を図る。「個別最適」と「全体最適」を適切に取り入れたICT活用の授業を日常的に実践していく。

### 2 豊かな心の育成

人権尊重教育推進校として「自分も人も大切に作る児童の育成」を目指し、児童一人一人が自己肯定感を高める教育活動を模索し実践したことは成果

である。しかし、学校の日常生活の中で起きる人権に関わる問題に出会った時に、教員によって対応がまちまちであったことは否めず、合意形成の元、一人一人の教員が自律的に対応できるようにしていくことが課題である。「学級活動」を中心とした特別活動や「総合的な学習の時間」を中心に、自分たちが決めたことを実践していくことで、失敗を通して学び、高学年の児童が主体的に学校を引っ張っていく姿を見せられるよう教職員で支えていく。幼稚園・保育園との交流は感染防止対策を講じて実施することができたことは成果である。課題としては、幼稚園や保育園で身につけた主体性を小学校で有効に活用していくことである。

### 3 健やかな身体の育成

体力づくりの習慣化と定着をめざし進めてきた外遊びや縄跳び運動を継続できたことは成果である。一方、課題としては児童がなぜ体力作りの習慣化と定着が必要なのかの意義を理解して主体的に取り組むようにしていくことが課題である。

また、養護教諭や栄養士が健康教育や食育等を通して、児童が主体的に健康について関心をもち、進んで健康を保持増進させようとする活動を生み出せるようにしていく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	健やかな身体の育成	○	○	○	○	○
4	幼保小中の連携	○	○	○	○	○

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業</li> <li>自分の考えを伝えたり相手の考えを聞きさらに自分の力を伸ばしたりできる児童の育成を図る授業</li> </ul>		2月の区学力調査で4月比平均点+3点をめざす。(目標通過率80%) 年度末児童アンケート「授業はわかる」90%。		区学力調査で目標通過率は78%と達成基準を超えることができなかった。また年度末児童アンケート「授業はわかる」は88%となりどちらも達成基準を2%下回った。		昨年度に比べ、目標通過率が下がってしまったことを真摯に受け止め、朝学習で基礎基本をしっかりと習熟させることに今後、より一層力を入れていく。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 新規	授業内 基礎タイム	全学年	年間	毎時間の授業の中で、最初の5分間を、前時までの基礎的な復習をする。	授業観察	毎日1回以上	授業観察時に5分間の基礎的な復習を取り入れていた。	基礎問題をファイリングしていくことにより、児童が自分の成長を実感できた。	○
新規	選択学習	全学年	年間	授業の中で、児童が主体的に選択できるような学習場面を取り入れる。	授業観察 週案への記載	一単元1時間以上	授業観察時に選択学習や児童が個別に課題を作る学習を取り入れていた。	児童が主体となる学習活動の場面が前年度に比べて格段と増えた。	◎
継続	AIドリルの活用	1～6年	年間	1～6年担任 キュビナを活用した基礎基本の定着	週案への記載、授業観察 職員会議報告	活用は全児童	全児童キュビナ活用	授業時間に適切にキュビナを活用できるようになった。	○
新規	教員の指導力向上	全教科	年間	・週に一度他教員の授業参観 ・校内研究授業年間3回 ・小中連携授業年間1回 ・教科指導専門員の指導 ・年次研での研究授業	週案への記載 小中連携実施 報告書	・学力調査結果：前年度比+3点 ・卒業対象2名	・学力調査結果前年度比-3点 ・教科指導卒業5名	児童の学力調査の結果は、前年度より下がってしまったが、教員の指導力は、確実に向上している。	◎
新規	ICTの日常 化授業	全教科	年間を通して 実施	・児童が選択して活用 ・共有、記録、	授業観察、週 案等	毎日1回以上の 活用	・一斉にICTを使うのではなく、児童が選択して適時活用できる場面が増えた。	家庭学習やクラスの連絡・共有を日常的にICTで活用するようになった。	○
新規	学校図書 館の活用	全教科	週1回 以上	・読み聞かせの導入 ・読書時間の設定(週1) ・前期に授業内で調べる学習コンクールに取り組む ・ブックトーク ・ビブリオトーク	・週案への記載 ・調べる学習 コンクール参加	・コンクール参加7件以上	調べる学習コンクールに7件参加	・今年度、図書館重点校に指定してもらったことにより、図書司書の勤務日が増え、児童が日常的に図書館を利用するようになった。	◎
新規	家庭学習	全教科 主に国語 算数	年間	・家庭学習時間の定着(学年×10分) ・学年で示したテーマに沿った学習の実施	・担任による 提出率の確認	提出率90%	家庭学習提出率90%	一人1台のタブレットを活用し、家庭学習も進んで取り組む児童が増えた。	○

重点的な取組事項－２					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校生活の満足度及び自己肯定感の向上		年度末児童アンケートで90%以上	学校評価において「学校は楽しい」と答えている児童が90.2%	今年度、4月より全校で「学習規律」を重点に取り組んだことが良かった。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自分とともに他も大切に育てる児童の育成（いじめ防止）	児童アンケート90%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のいじめアンケートの実施</li> <li>・5年全員のSC面談</li> <li>・年度末児童アンケート実施</li> </ul>	児童の心のアンケート「自分とともに他社も大切にしたい」肯定率が92.1%達成基準を超えた。5年生だけでなく4年生もSCによる全員面談を実施。	人権尊重教育推進校として「とねいちタイム」等の取り組みが有効だった。5年生だけでなく、4年生もSCの全員面談をしたことにより児童の実態把握ができた。	◎
人権尊重教育の推進	自己肯定感に関する調査結果の向上（+1点）	・「自尊感情チェックシート」の実施	児童の心のアンケート「私は自分という存在を大切だと思える」肯定率が90%	自己肯定感については、昨年度と今年度の2年間の人権尊重教育の成果が出ている。	◎
差別や偏見の防止	自尊感情チェックシート結果の向上(+1点)	・毎月のセルフチェックシート	児童の心の間アンケート「私は自分のことを大切にしたい」91%であった。	自尊感情についても、昨年度と今年度の2年間の人権尊重教育の成果が出ている。	◎
交流活動の推進	異学年交流年間6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班活動</li> <li>・異学年との交流活動</li> </ul>	今年度はインフルエンザ等の感染防止のため、予定していた縦割り班活動6回のうち、3回しか実施できなかった。	6年生は、念入りの準備をしていたが、感染よへぼうの観点から実施が難しかった。	△

重点的な取組事項－３		健やかな身体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
運動習慣の定着		運動をすることが好きな児童８０％	学校評価アンケート「運動や体を動かすことがすきだ」肯定率 ８５％	達成基準を超えることはできたが、来年度に向けさらなる工夫が必要である。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力づくりの取組	・長縄・サーキット月一回実施 ・マラソン大会で自分の最初の記録より上回る児童９０％以上	体育的行事担当を中心に ・体育授業での継続的な取組 ・体育朝会の実施 ・マラソン大会に向けた休み時間の練習	マラソン大会で、自分の最初の記録より上回る児童は９６％。	今年度は、児童が休み時間等を活用して、進んで記録更新に向けて取り組むことができた。昨年度まで学校の外の公道を使っていたが、使えなくなったため、校庭での周回を間違えないよう工夫することができた。	◎
健康教育の推進	・自分の心と身体をセルフコントロールできる児童８０％	・養護教諭を中心に全校で発達段階に応じた健康教育指導 ・Google フォームでセルフコントロールアンケートの実施	児童の学校評価で「困ったときは先生やおうちの人など相談できている」の肯定率が８８．９％と達成基準を超えることができた。	スクールカウンセラーが週２回訪問することで、児童の心と体をセルフコントロールできるようになってきている。	○
食育の推進	食に関する取組（年６回）	・食育担当と栄養士を中心にアレルギー対応についての指導 ・１～３年生の給食食材の皮むき体験（サヤエンドウ・トウモロコシ・グリーンピース） ・６年生の家庭科で児童が給食の献立を作成し、給食献立に取り入れる	食に関する取り組み年６回は実施することができた。栄養士が毎日、校内のすべての教室を回り、児童に食育をしてくれている。	学校へ来る最大の楽しみは給食といっても過言でないくらい本校の児童は給食が大好きで、給食を楽しみに学校へ来ている。栄養士が様々なまふうを凝らしている	◎

--	--	--	--	--	--

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

今年度の成果としては児童の自尊感情や自己肯定感が高くなったことが挙げられる。人権尊重教育に2年間取り組んできた成果といえる。また、図書館重点校に指定してもらったことにより、図書館司書の配置が4日間に増え、図書館の活用が増えたことから、児童が主体的に調べ学習に取り組む習慣がついてきた。これまでの読書だけでなく、教科学習としても図書館を活用できるようになったことは成果である。

一方で、課題としては学力向上である。区学力調査において、目標通過率80%を超えられなかったことは大きな課題である。次年度に向け、朝学習だけでなく、児童がわかる授業に向けて授業改善に取り組んでいく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

「自分も人も大切に作る児童の育成」に向け、ご家庭や地域でも温かく見守っていただき、ありがとうございます。

おかげさまで、児童の自己肯定感が2年前の74%から今年度は92%へと上がりました。また、「自分という存在は大切な存在である」と思っている児童が90%を超えることができたこともうれしいことでした。令和4年度・5年度と人権尊重教育推進校として研究する機会をいただいたことにも感謝しております。今後も児童が「自分も人も大切に作る」学校として引き続き、取り組んでいきます。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

今年度はどの学級も「学級会」を大切に取り組んできた。学級会を大切にすることで、児童が自分とは違う意見をもっている他者がいることを理解し、それぞれの理由を聞くことで、お互い理解し、折り合いをつけていくことができるようになった。お互いの考え方を尊重できる学級は、心理的安全性が確保され、何を言ってもいじられない、笑われないことで、どの子も自分の考えがどんどん言えるようになってきた。各教室の空気が柔らかくしっとりとした空気になったことは今年度の大きな成果である。